

ヒリュウ台による温州ミカン「今村温州」の樹冠制御と果実品質向上効果									
<p>[要約] ヒリュウを台木にすると、温州ミカン「今村温州」の樹冠容積をコンパクトに制御できる。収量は1樹当たりでは少なくなるが、樹冠容積当たりでは多くなる。果皮色、果実糖度は、従来の台木を使用した場合に比較して優れている。</p>									
園芸研究所・果樹部・常緑果樹研究室						連絡先	092-922-4111		
部会名	園	芸	専門	栽	培	対象	果樹類	分類	指導

[背景・ねらい]

温州ミカンは、高糖系といわれる品種への改植が進んでいる。しかし、従来から使用されているカラタチ中葉系を台木とした場合、高糖系の品種でも土層が深い園などでは必ずしも高糖度の果実が生産されない場合がある。また、高糖系として知られている「今村温州」は、果実品質が良いものの樹が大きくなりすぎ、結実が不安定である。そこで、わい性台木のヒリュウを利用した場合の「今村温州」の生育や果実収量、品質に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 ヒリュウを台木にすると、「今村温州」の樹齢8年生での樹冠容積は従来のカラタチ中葉系を台木にした場合の1/4程度に抑制できる(図1)。
- 2 ヒリュウを台木にした場合の樹齢5年生から8年まで累積収量は、1樹当たりで従来の台木を使用した場合の1/3程度と少なくなる(表1)が、樹冠容積当たりでは2割程度多くなる(図1)。
- 3 果皮色は年による差はあるが、いずれの年もヒリュウを台木にした場合、従来の台木を使用した場合よりも着色が早くなる(表1)。
- 4 果実糖度はヒリュウを台木にした場合、従来の台木を使用した場合よりもBrix指数で2割程度高くなる(表1)。
- 5 果実のクエン酸含量は年による差はあるが、台木による差はみられない(表1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 土層が深い園地に適用できる。
- 2 1樹当たりの収量が低いので、計画密植栽培を行う。
- 3 結実を始めると樹冠容積の増加程度は押さえられるので、未結実期間に樹冠の拡大を図る。

[具体的データ]

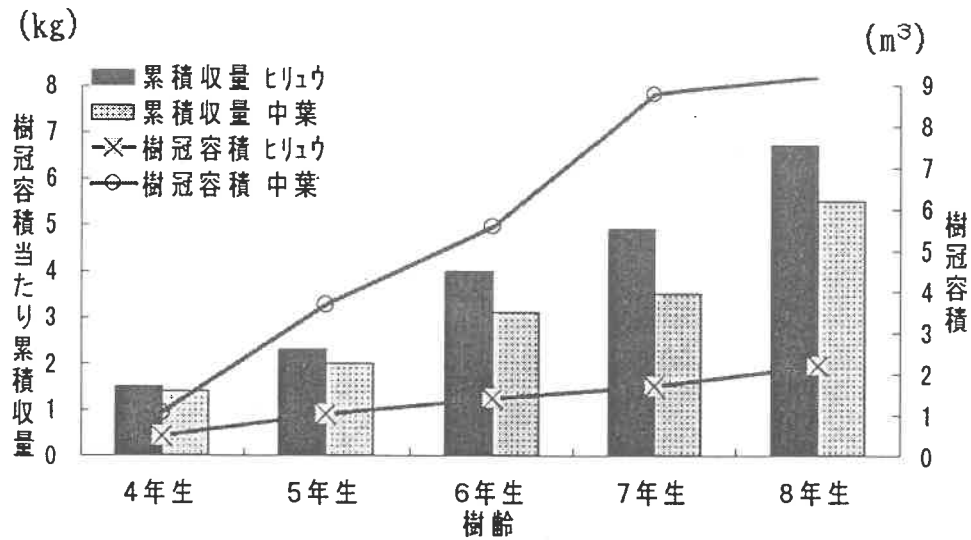


図1 樹冠容積と樹冠容積当たり累積収量の推移

注) ①樹冠容積は樹冠長径×短径×高さ×0.7で算出

表1 ヒリュウ台による「今村温州」の品質向上効果

樹齢	1樹当たり収量Z		果実重Y		果皮色X		果実糖度		クエン酸含量		
	ヒリュウ	中葉	ヒリュウ	中葉	ヒリュウ	中葉	ヒリュウ	中葉	ヒリュウ	中葉	
年	kg	kg	g	g					%	%	
平成6年	5	1.4	2.3	139	134	8.4	7.6	12.1	9.7	0.89	0.81
平成7年	6	2.4	6.5	130	134	9.4	5.9	12.1	9.1	1.26	1.16
平成8年	7	2.1	3.1	135	133	7.6	5.6	12.2	9.7	0.96	1.09
平成9年	8	3.8	18.0	132	132	8.7	8.4	12.3	10.6	0.93	1.00
平均		9.7	29.9	134	133	8.1	6.9	12.2	9.7	1.01	1.02

分散分析

台木	**	NS	**	**	NS
年次	**	NS	**	NS	**
台木×年次	**	NS	**	NS	**

注) ①Z: 1樹当たり収量は着果した全樹の平均、平均の項は累積収量。Y: 果実重は1樹当たりの収穫量を収穫果数で除して算出。X: 果皮色はカラーチャート(農水省果樹試験場編)指数。

②平成2年接ぎ木、平成3年にほ場(砂壤土、花崗岩)に定植。調査日は各年の12月中旬。中葉は従来から使用されている台木。

[その他]

研究課題名: カンキツに対する優良台木の選抜

予算区分: 経常

研究期間: 平成9年度(平成6~10年)

研究担当者: 堀江裕一郎、角利昭、栗原実、大庭義材、野方仁

発表論文等: 平成5~9年度 園芸研究所果樹部 果樹関係試験成績書